

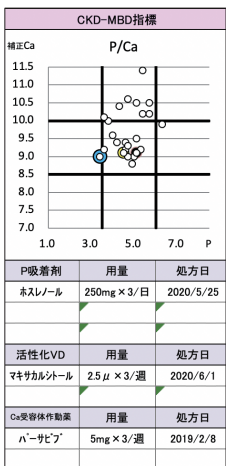
透析情報一元管理表を作成

経時的変化を自動でグラフ化

西区の北海道大野記念病院（齋藤孝次理事長、入江伸介院長・276床）は、透析情報の一元化と共有へ、臨床工学技士が市販のアプリケーションを活用して透析患者管理表を作成。さまざまな職種が院内のどこにいても参照できるほか、検査数値などの経時的変化を自動でグラフ化するなど利便性に優れ、多くのスタッフに活用されている。

同病院の透析室は、専ら、同管理表の作成に任外の臨床工学技士は担当業務を日単位でローテーションしており、数多くの透析患者の情報を迅速に把握することが困難だった。さらに、定期的なカンファレンスで看護師や臨床工学技士らが話し合い、医師に透析条件や処方薬を提案する機会が多く、そのためには、透析患者をさまざまな情報を経時的に正確に理解しておく必要があったこと

市販の表計算アプリケーションを活用。電子カルテシステムと連動しており、各部署の電子カルテ端末で閲覧、入力が可能だ。表示項目は、体重指標、貧血指標、電解質、CKD-MBD関連、栄養指標、透析処方など。項目ごとに入力箇所を設け、体重項目では最新の体重を入力すると、体重増加



CKD-MBD		範囲
Ca		8.6~10.2mg/dL
補正Ca (Paneyの式)		8.4~10.0mg/dL
P		3.5~6.0mg/dL
i-PTH		60~240pg/mL

Ca・Pの分布図を表示

グラフ上のマーカーには直近3回分で色分け
※ 青: 最新, 黄: 前回値, 赤: 前々回値

最新の処方を図の下に反映

9分割図は色分けで変化が表示される

栄養指標は、総タンパクやアルブミンだけでなく、年齢や摂食状態などを考慮した評価を重視し、血液検査から自動的に算出されるnPCR、NRI、GNRI、NLRにて多面的に評価できるよう、これらの項目が自動でグラフ化されるほか、最新の処方グラフの下に反映される。透析処方、血液検査時の透析条件を入力する欄を設

けたことで、透析条件を変更したときの比較が容易になっている。同管理表を活用した結果、データを時系列で追えるため、迅速に患者情報の把握が可能となったほか、専任ではない臨床工学技士でも透析室スタッフとの患者の情報共有が容易になった。また、各種情報を把握しやすくなったことで、専属と非

専属の臨床工学技士間での認識の差が減少。さらに、患者一人一人に対する、他職種間との共通認識を高めることにつなが

ついで。同管理表の数々の工夫は、最初から実装していたものではなく、利用していく中で、医師や看護師など利用するスタッフからの要望に応える形で、機能を拡張してきた。同管理表を作成した萩原来輝臨床工学技士は「拡張性の良さが、このアプリケーションの利点」と話し、今後も随時更新を図っていく。